

阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会

摩周地域部会（第3回）

議事概要

1. 日 時：平成28年11月22日（火）15:00～17:00
2. 場 所：弟子屈町役場 泉ふれあいセンター
3. 出席者：出席者名簿のとおり
4. 議 事

■開会

○環境省釧路自然環境事務所 安田 直人 統括自然保護企画官 挨拶

■議題

（1）阿寒国立公園満喫プロジェクトステップアッププログラム2020(案)について

○環境省から参考資料に基づき、スケジュールの説明。

○環境省から資料1に基づき説明。

○意見等の概要

【自然公園財団川湯支部】

- ・6Pのコンセプトに関連して、近年、気候変動という言葉聞くが、実際にフィールドでも他人事ではない事態が様々起きている。その辺を踏まえて、このコンセプトの部分で、もう少し揺るがない保護思想を組み込んだものが伝えられないか。例えば、10年後責任が取れるような事業の展開の仕方や、30年後など長いスパンで見られるような考え方が必要である。コンセプトとちょっと違うかもしれないが、そのあたりくみ取るような表記はないだろうか。

【環境省】

- ・同じ6Pの（2）取組の方針の中で、「自然の恵みと伝統文化をしっかりと保護・維持する」、「豊かな自然環境及び自然資源の保護を大前提」を明記し、その上での利用の推進と位置づけている。ご発言の趣旨はその部分でご理解いただければと思う。

【美幌町】

- ・19Pのウ) インバウンド対応のための施設整備等の4つめの・で、2017年度までに美幌峠園地の再整備等を記載いただいている。予算がついてありがたいが、17年度では終わらない可能性もある。引き続いて新たな整備が出てきたらということも考えると、例えば年限を2020年までとする等の対応は出来るのかどうか伺いたい。

【北海道環境生活部環境局】

- ・ 今後、進捗状況を把握する中で新たなものも出てくることは想定されるが、本ステップアッププログラムでは、予算の目処が立っている等、一定程度確定しているものを記載しているということをご理解いただきたい。

【美幌町】

- ・ 現状では、例えば地域協議会の開催回数等、各プロジェクトの進捗管理のスケジュールはどのようなイメージか。

【環境省】

- ・ 本省からスケジュールに関して明確な指示はきていないが、個人的には年に1回は検証する必要があるのではないかと考えている。その際に、個々の取組の検討を進めることで見直しが必要な項目が出てくれば、ステップアッププログラム自体の見直しにつながっていくと思う。

【弟子屈町】

- ・ 本ステップアッププログラムは12月に確定し、確定後は国へと報告されると思う。そうすると、記載の事業が確定するのはいつになるのか。

【環境省】

- ・ 事業の予算に関しては並行して検討が進んでおり、交付金の照会なども連絡がいついと思う。補正等の中身も並行して検討が進んでいる。再来年の事業については、再来年度の予算要求のタイミングで固まることになると思う。いずれも個別に相談していくことになるだろう。

【弟子屈町】

- ・ 事業が固まるのが12月となると、市町村の場合来年度予算で対応するには遅いのだがどうすれば良いか。

【北海道環境生活部環境局】

- ・ ステップアッププログラムは国の承認を受けるものではなく、本地域協議会で合意する実行計画のようなものである。このため、本ステップアッププログラムが承認されて国から交付金がおおりる、といったものではなく、交付金については別のルートである。もちろんステップアッププログラムに記載されている事業の方が交付金はつきやすいかもしれない。また、ステップアッププログラムに記載されていないからといって、再来年の事業として交付金の要求ができないわけではない。

【環境省】

- ・今の説明にあったとおり、来月の地域協議会でステップアッププログラムは策定されるが、その後、更に本省等から承認を得るものではない。協議会で承認されればそれで完了するものである。
- ・ステップアッププログラムには予算が必要なものだけを載せているわけではない。ステップアッププログラムに基づいて、摩周地域にとって重要な事項の検討を進めていけばと思う。検討の結果、予算が必要になれば、各主体がそれぞれの財政当局に予算要求をしていき、その根拠としてステップアッププログラムを活用していただければよいと考えている。

【弟子屈町】

- ・本年 11 月 15 日に「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」が認定され、同構想に基づきツアー・プログラムを検討していきたいと考えている。本ステップアッププログラムとエコツーリズム推進全体構想はそれぞれで進めていけば良いのか。

【環境省】

- ・先日認定されたエコツーリズム推進全体構想は、今後エコツーリズムを推進するためのものとしてまとまっており、これを具現化するためには地域の議論を始めることが必要。その際にエコツーリズム推進全体構想だけでなく、ステップアッププログラムにも記載されていけば強い根拠になると思う。
- ・先ほどの自然公園財団川湯支部の発言にもあったが、やはり自然保護が大前提である。長期的な自然保護を行っていくために、どう賢く地域の宝を使っていくかが最大のポイントと思う。

【中標津町】

- ・8～9Pの二次交通に関する表現について、実現できるようなものや、より強い表現にはならないか。二次交通については昔から弱いことがわかっており、検討を進める、では2020年まで検討して終わってしまうのではないか。

【環境省】

- ・8Pでは「・・・検討し、その結果を踏まえ充実を図る」としている。具体的な内容には、阿寒国立公園広域観光協議会の中でご議論いただければと思う。
- ・3つの空港（釧路空港、女満別空港、中標津空港）や新千歳空港からの二次交通は強化すべきものであり、8Pでは大きな部分を、9Pでは地域から提案のあったものを記載している。議論が進む中で文言は見直していきたいと考えているので、まずは議論を始めてもらいたい。

【津別町】

- ・本町が関係する津別峠に関して、前回の素案ではビューポイントにおいて実施する事項に記載があったが、今回は削除されているようである。その理由をお教えいただければ。
- ・また、展望施設が国立公園内に入っていないので、道路整備に補助が受けられないのが現状である。このステップアッププログラムで対応可能なのか確認したい。

【環境省】

- ・ご指摘の箇所は 19P かと思う。前回の素案の段階では大枠で記載していたが、その後具体的な記載内容について意見を伺っていたが、美幌町からは具体的に事業を実施することのお話があったので今回記載している。津別町についても何らかの事業実施を想定されているのであれば記載したい。町としてここは重要なので記載して欲しい、という意向があれば記載していくので、ご意見いただければと思う。
- ・なお、18Pの最後の・の「ツアー・プログラムの開発・実施を図る」では、津別町が実施主体として記載されている。
- ・補助に関してはこれらの検討を進める中で、環境省の交付金だけでなく、前回の地域部会で各省庁の補助事業の一覧表を紹介したので、上手く活用して頂ければと思う。

【北海道観光振興機構】

- ・当機構としては、マーケティングの部分で貢献したいと考えている。特に、来ていない人の意向がどうなのか考えていきたい。
- ・リピーターがつくガイドというのは、その地域を知っている人ではなく、相手の住んでいる地域のことを知っていて、その地域と今案内している地域を比較して話せる人と言われる。こうした外からの目線を強化していくことに関して我々も支援していきたい。

【摩周湖観光協会】

- ・18Pにカヌーツアーへの検討が記載されており、ありがたい。ナショナルパークとして屈斜路湖できちんとしたものを考えていきたい。
- ・魚の乱獲など、屈斜路湖と釧路川をリンクして考えていくことも必要と思う。

【美幌観光物産協会】

- ・13Pの「②各ビューポイントを含め広域的に実施する事項」の3つめの・の下に※で「ロングトレイルのルート設定のイメージ」の記載がある。ここにはサイクリングロードも含まれているのか？含まれているならサイクリングロードの言葉も入れた方が良いのではないか。
- ・平成 25 年の環境省による公園計画の見直しの際に、屈斜路湖北西外輪山線に遊歩道をつ

ける、つけないといった議論があったような記憶がある。それが現状どうなっているのか確認したい。それが残っているならステップアッププログラムの中での検討になるのではないか。

【環境省】

- ・この「※ロングトレイルのルート設定のイメージ」については、具体的にこれで進めるというものではなく、阿寒地域、摩周地域の両方からイメージとして提案があったものである。一方でサイクリングロードは具体イメージの提案がなされていないので、ここには含まれていない。
- ・検討を進めるという意味ではトレイル、サイクリングの両方であるが、現時点の地域のイメージとしてはトレイルなのではないか。その点については阿寒国立公園広域観光協議会での議論になる。
- ・見直し後の公園計画の中ではご指摘の遊歩道は削除されているが、それをもってロングトレイルの議論ができないわけではない。より良いルート設定をしていただければと思う。

【きよさと観光協会】

- ・トレイルがあるならサイクリングロードも設定したい。清里町ではサイクルイベント「グランfondきよさと」を5回開催している。摩周でも「グランfond摩周」を4回開催している。今年中は標津エリアとも協力し150km ぐらいのロングコースを設定した。かなり参加者も増えて、実際のルートとしてサイクリングしている人も多い。ステップアッププログラムで具体的に記載してあると、町とも交渉しやすくなる。
- ・17Pに記載のある摩周カルデラ北部外輪山プログラムは夏だけでなく冬もある。冬のプログラムも含めていきたいのでご検討をいただきたい。

【環境省】

- ・サイクリングロードについて、イベント開催実績もあるので参考になると思うが、トレイルのような形でイメージを設定できるかどうか、阿寒国立公園広域観光協議会の意見も聴いてみたい。きよさと観光協会でイメージを描けて、同協議会等の同意が得られるのであれば本ステップアッププログラムに盛り込むこともできる。議論していただければと思う。

【小清水町観光協会】

- ・我々の関係する施設としては「ハイランド小清水725」がある。地図の中には名前が出ているがあまり知られていないので打ち出してってもらえれば。町の方でも施設整備を振興局と交渉しているところである。

- ・同施設にいかないと藻琴山の登山が出来ない。また、雲海もたまに見られるスポットであるので、ステップアッププログラムの中でも盛り込んでいただければ。
- ・小清水町は熱気球の町であり、3月頃に摩周湖を横断するようなものも事業者が許可を取ってやっている。これも本ステップアッププログラムのどこかにあればと思う。

【環境省】

- ・ご指摘の点は18～19Pに関わると思う。ツアー・プログラムの開発や実施について記載しており、具体的な提案をしていただければ盛り込むことも可能である。
- ・すぐに整備できないものでも、検討を進めるという言い方で記載しているものもあるので、ぜひ積極的に提案していただければと思う。

【阿寒国立公園川湯運営協会】

- ・10Pに「③温泉街のまちなみ景観の改善」があるが、廃屋の対処をどうするか。ぜひ検討をお願いしたい。
- ・同じく10Pに「つつじヶ原自然探勝路の再整備」があるが、これは歩くところをただ整備するのか、景観を含めてなのかをお聞かせいただきたい。

【環境省】

- ・廃屋については16～17Pに具体的に記載している。「森の中にある温泉街」のコンセプト実現に向け、廃屋の対処は大事な問題である。ステップアッププログラムの取りまとめが出来次第、記載されているメンバーで、廃屋をどう撤去できるかも含め議論を始めていきたい。
- ・つつじヶ原自然探勝路の再整備については、現在デッキなどが老朽化しているので、まずはデッキや解説版などを想定している。出来るところから取り組み、その中で植生が変化していることについても、周期的なものである可能性も考慮し、必要に応じて取り組んでいきたい。

【自然公園財団川湯支部】

- ・屈斜路カルデラについて、世界有数と言いながらあまり打ち出されていない。屈斜路カルデラと同等の阿蘇カルデラは世界ジオパークに認定されている。屈斜路カルデラも火山（ジオ）を意識した表現があってもよいのではないだろうか。外国人は火山が好きなものであり、日本人とは違う目線で見ている。硫黄採掘の歴史や馬による硫黄運搬や、北海道で二番目の鉄道など、硫黄山の特徴ある歴史を明確に打ち出し、具体的なものを盛り込んでほしい。

【環境省】

- ・世界最大規模の屈斜路カルデラについて、コンセプトでは謳っている。
- ・本ステップアッププログラムでは、具体化されているものは記載しているが、それ以外は「構想等として取りまとめる」などの形で記載している。歴史に配慮する等の記載ぶりは検討出来ると思う。

【北海道経済産業局】

- ・本ステップアッププログラムについて、プレーヤーが明確になっていてわかりやすいと思う。
- ・20P、(3) プロモーションに係る事項について、様々なプレーヤーが記載されている。それぞれがコンテンツを作成し発信するのは良いが、観光協会などの組織がこれら各プレーヤーのコンテンツを活用しながら海外に打ち出していく、というものがあっても良いのではないかと。経済産業局では、海外へのPR実施時の支援などもしている。記載されているプロモーション動画制作を行うのであれば、それを活かしながらいろいろな事業が連携して取り組んでいくと良いのではないかと。

【環境省】

- ・20Pの(3) プロモーションに係る事項の最後の・について、関係市町及び関係する観光協会等がメンバーになっているのが阿寒国立公園広域観光協議会である。同協議会の中で全体の動きは把握してもらい、あとは個別にいろいろなツールを使って動くという形はあると思う。

【根釧西部森林管理署】

- ・本ステップアッププログラムについては、短期間で幅広い内容をまとめている。事務局である環境省に敬意を表したい。
- ・当庁はフィールドとしてもっとも広い面積を管理しているので、引き続き協力して取り組んでいきたい。

【釧路運輸支局】

- ・さきほど二次交通について強い表現にというご意見もあった。二次交通は、誰がサービスを提供し、誰がお金を払うのかというのが避けられない問題であるが、基本は民間事業者がやるものであり、赤字では継続性がない。こうした大きな問題もある中で、皆さんと一緒に議論していきたい。

【北海道開発局釧路開発建設部】

- ・安心、安全ということも大事な要素であるので、盛り込んだ方が良いのではないかと。

【環境省】

- ・ 検討したい。

【北海道開発局釧路開発建設部】

- ・ 当地域は大酪農地帯であることから多くの乳牛がおり、当国立公園を訪れる際に空港へ降りると、家畜糞尿のにおいがある。これはすごい洗礼ではないか。匂いは個人差があるものだが外国人はどう思うだろうか。国立公園を訪れる際には必ず周辺地域を通ることになり、そこでマイナスのイメージを与えてしまう。当地域協議会には環境省、北海道が参画しているので、こういう地域の環境問題があるということは知っておいてほしいと思う。

【摩周湖観光協会】

- ・ 本ステップアッププログラムについて、我々の想い、気持ちが詰まったものになってきていると感じている。
- ・ 硫黄山や鉄道、港、網走刑務所の前身である釧路集治監網走囚徒外役所なども、川湯の歴史の原点である。こうした歴史や背景が伝わるように議論を深めていきたい。
- ・ 本地域協議会の初会合で述べたが、それぞれがお互いの地域を紹介できるような関係性をつくるのが重要であるので、観光協会の中でも連携を深めていきたい。

【弟子屈町】

- ・ 1点お願いがある。本ステップアッププログラムで他言語に対応した看板や標識等の整備が位置づけられているが、国立公園全体での表記統一に向け取り組んで欲しい。

【環境省】

- ・ 様々なガイドラインある中で、関係者間で統一を図れるようなデザインなどに関する議論深めていくことが重要と考えている。

【北海道環境生活部環境局】

- ・ 多言語対応をどこまでやるかという話もある。先日ある講演会で台湾の人に聞いたら、訪れた先で母国語が蔓延していたらがっかりするという話であった。中華系の方は漢字がわかるので、日本語もなんとなく分かる。危険や注意等はしっかり記載する、パンフレットで補足するなど、場面に応じたやり方はいろいろあるかと思う。いろいろ意見交換していきたい。

(2) その他

※特になし

■閉会

○北海道環境生活部環境局 小林 隆彦 生物多様性保全課 自然公園担当課長 挨拶

以上